

老健との一体型施設を12月4日にオープン 環境に配慮した設計、設備導入でZEB認定取得

医療法人社団 井上会 熊本光洋台病院



理事長
井上 佳子

「ひかりテラス病院」に改称

1979(昭和54)年に現在地である熊本市南区城南町今吉野に「宇城中央病院」として開院し、今年で44年を迎える熊本光洋台病院(井上佳子理事長)。金峰山や普賢岳が一望できる高台に位置しており、緑と木々に囲まれた穏やかな療養環境の中で、高齢者を中心として地域に根差した医療と介護サービスを提供している。

今年と同院敷地内に12月4日、病院と介護老人保健施設(老健)の一体型施設をオープン、同時に「ひかりテラス病院」へ名称を変更する。今回の新施設建設では、既存の5階建て本館および4階建て新館の老朽化に加え、敷地内にある別棟「永礎(えいてい)病棟」と病室が分かれているため、4階建て、延べ床面積6760㎡の新施設に集約し、利便性

の向上を通じた効率的な病院運営を目指す。介護老人保健施設「光乃里」も老朽化が進んでいたため、総事業費22億円かけ、病院と老健の一体型施設として新築したものだ。新病院名には関連施設である「光乃里」や「みんなの光」の「光」から派生した言葉として「照らす」を連想し名付けた。

新施設では医療型療養病床を8床増やし、52床にした。ハード面では患者や入所者およびスタッフの導線を意識した設計を採用したほか、快適性や省エネ性能を高めるZEB(ネット・ゼロ・エネルギービル)の認定取得など、環境に配慮した設計や設備を導入。ZEBの中で最も高いエネルギー消費量の削減レベルに該当する「ZEB Ready」(ゼブ・レディ)認定を県内の病院では唯一取得した。一方、熊本市認定の災害時における福祉避難所としても活用できるように整備しているという。なお新施設のオープン後、病院の本館と新館は解体し、跡地は駐車場として活用する方針だ。

「医療と福祉つなぐ役割を」

同法人では患者や利用者の平均年齢が83才で認知症を有する方が多いことから、高齢者の方々の緩和的抗がん剤治療や疼痛コントロール、さらには訪問診療や往診に注力している。今年4月1日付で就任した井上佳子理事長は「新施設オープン後も法人の理念である医療と福祉をつなぐ役割を担いつつ、近隣の福祉施設と連携しながら在宅移行支援へ努めていきたい。これからも患者さまやそのご家族が温かい気持ちになれるような真心のある医療と介護の提供を目指す」と力強く語った。



▲現病院本館(写真手前)の隣接地に12月4日オープンする老健との一体型施設



医療法人社団 井上会
ひかりテラス病院
介護老人保健施設 光乃里
グループホーム みんなの光

医療法人社団 井上会 ひかりテラス病院

(熊本光洋台病院から12月4日に改称予定)

診療時間 9:00~12:00/14:00~17:00 休診日 土・日・祝祭日・年末年始

〒861-4211 熊本市南区城南町今吉野1020
TEL(0964)28-6000 FAX(0964)28-6017 <http://inouekai.com/>